

平成 29 年夏季ボーナスアンケート調査

今夏のボーナス予想支給額は、2 年ぶりに改善へ

～ 「上回る」割合が「下回る」割合を超える～

平成 29 年夏季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを、官公庁・民間企業等に勤務する給与所得者世帯を対象にアンケート調査を行いました。

【ポイント】

ボーナス支給額の増減予想（昨年夏比）

全体（官公庁・民間企業等）では、「上回る」が 16.0%、「下回る」が 12.2%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は 3.8（昨年夏 5.9）と、2 年ぶりにプラスに転じた。民間企業では、製造業はプラスに転じ、非製造業は改善した（製造業：昨年夏 23.7 今年夏 4.0、非製造業：同 13.1 同 1.4）。また、年代別にみると、全ての年代で改善となった。

ボーナス予想支給額

「40 万円未満」が全体の約 2/3 を占めた。「20～40 万円未満」が昨年夏に比べ増加し、また、「60 万円以上」（「60～80 万円未満」、「80～100 万円未満」、「100 万円以上」の合計）はわずかに増加した。

ボーナスの使い道

首位は「預貯金」と堅実な姿勢が継続している。昨年夏と比べわずかながら「住宅補修・改築」、「旅行・レジャー」が増加した一方で、「借入金返済」、「預貯金」、「耐久消費財」の割合が減少した。

ボーナスを貯蓄する目的

首位は「老後の生活への備え」、続いて「特に目的はないが安心だから」となった。また、「老後の生活への備え」は昨年夏に続き増加した。

ボーナスの運用方法

「銀行普通預金」が 66.9%と最多であり、例年通り「銀行定期預金」、「財形貯蓄」と続いた。また、「投資信託」などのリスク性商品については、昨年夏と比べいずれもその割合が増加した。

【調査要領】

1. 期 間 平成 29 年 6 月 1 日～6 月 14 日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法 山陰合同銀行本支店等の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,440 枚）
返信用封筒により回収
4. 回 答 数 有効回答数 589 枚（回収率 24.1%）
（県別内訳：鳥取県 296 枚、島根県 288 枚、不明 5 枚）